



会報

東京都中学校長会

平成28年7月12日

第384号

発行 東京都中学校長会
会長 常盤 隆
〒105 港区西新橋1-22-13
-0003 全日本中学校長会館202号
電話 03(3504)8705
FAX 03(3504)8706

〈巻頭言〉 課題山積の中の一校長として、 中学校長会の役員として

副会長 岩永 章
(新宿区立新宿西戸山中学校長)

今年度、副会長再任のご承認をいただき、会員の皆様方にお礼申し上げます。自校の経営と東京都中学校長会の仕事に励んでいるところです。先日の関東甲信越地区中学校長会研究協議会では分科会の助言者をさせていただき、自分なりに学校経営について考え直す貴重な機会を頂戴しました。その全体協議題や分科会研究題の趣旨説明には多くの教育課題が提起され、中学校教育に課題が山積していることがよくわかります。平成19年度に行われた中学校教育60年記念全日本中学校長会東京大会でも、数多くの課題が指摘されていました。10年前の大会以来、先輩の校長先生方とともに課題解決に邁進してきましたが、ここ数年の中学校教育を取り巻く課題は、ますます多様化・複雑化し、学校の守備範囲が拡大しているように感じています。

併せて、文部科学省や東京都教育委員会・地区教育委員会でもこうした課題に応えるべく環境整備が進められ、新たな施策が次々と出されています。スクラップ&ビルドなら学校も対応可能と思いますが、ビルド&ビルドの状況ではないかと感じることもあります。こうした状況は、今後も続くものと受け止めており、学校としても優先順位を決め、課題解決に向けた努力を続け、学校教育の質的向上を目指そうと考えております。こうした中、一校長として、文部科学省や都・地区教育委員会の施策や教育の方向性に関する情報を収集し、施策の目指す方向性について理解を深め、自校の実態に即した学校としての方向性を定めること。そして、分かりやすい言葉に翻訳し、教職員・生徒・保護者・地域住民に伝えることを心がけています。その際、具体的な方策と時間的な見通しも併せて伝えるよう努力しているところです。「本校の生徒に今何が必要で、最も効果的な方法は何か。」に絞って、学校としての方向性を定めるように心がけています。

こうした現状を踏まえ、東京都中学校長会の役員として、区市等校長会長

連絡会や地区代表者連絡会を通じて各地区の状況や課題を的確に把握してまいります。そして、役員会等で協議を重ね、東京都教育庁指導部や人事部に各地区の状況や課題の情報提供を行い、協議を深めることで教育条件を整えていきたいと考えております。こうした姿勢で1年間努力してまいりますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。



このような通常の活動に加え、来年度に予定されている中学校教育70年記念全日本中学校長会東京大会に向けた準備も着実に進めてまいります。現在、大会全体の骨子となる、会場確保、記念講演の講師、郷土芸能の出演者等が決定したところです。今後、大会誌の編集・大会運営の詳細の検討など、具体的な準備を行う段階に入りました。全日中役員と先生方と準備委員会を設置し、随時情報交換を行っているところです。今後、大会運営の詳細を検討する段階では、東京都中学校長会各部・各委員会の先生方の協力をいただき、部・委員会ごとに分担を決め、ご協力いただく予定です。しかしながら、大会当日3,000名を超える参加者を短時間で会場にご案内するなど、現有スタッフではどうしても人員が不足します。その際には、会員の皆様からもご協力をいただきたいと思います。

大会の成功に向け、今年度の東京都中学校長会の活動は極めて重要になると受け止めております。会員の皆様のご協力をお願いいたします。

6月区市等校長会長連絡会 報告

■区市等校長会長連絡会

日時 平成28年6月9日(木) 15時～17時

場所 新宿コズミックセンター

1 会長あいさつ (代理 岩永副会長)

- 5月11日、世田谷区立上祖師谷中学校・中村純也校長が亡くなりました。ご冥福をお祈りいたします。(全員で黙祷)
- 新任校長連絡会を5月17日に開催しました。39名の新任校長先生方に参加いただきました。講師は、中野区立中野中学校矢口仁校長、練馬区立開進第四中学校新村紀昭校長にお願いしました。
- 全日中会長に新宿区立新宿中学校 榎本智司校長が就任しました。5月25日の理事会で70周年記念大会実施要項案を説明し、承認されました。記念講演はノーベル賞受賞者で元都立墨田工業高校教諭の大村智司教授にお願いしました。
- 4月の「定期総会・研究大会」への出席率は、81.1%でした。11月の研究大会はオリンピック記念青少年総合センターを会場に開催します。多くの先生方の参加をお願いします。
- 今年度も欠員が発生しました。欠員状況調査をもとに人事部と情報交換をしていきます。教育管理職不足が危機的な状況です。引き続き管理職選考の受験推奨をお願いします。熊本県への災害派遣教員の募集について改めて案内いたします。
- 都内中学校での保健未履修の問題が6月の室課長会でも取り上げられました。組み体操の事故については、引き続き安全対策の検討を進めるとともに、校長会研究部での調査も検討していきます。

2 行政説明

- 「平成28年度都教育庁指導部の事業・諸連絡」
東京都教育庁指導部指導企画課主任指導主事 児玉 大祐 様
 - ・平成28年度防災ノート「東京防災」の活用促進について(防災ノート活用促進月間を7～9月に設定し、中1を対象に「防災標語コンクール」を実施)
 - ・東京2020オリンピック・パラリンピック教育の推進について(4つのテーマと4つのアクションからなる教育の基本的枠組み、4つのプロジェクトの推進)

3 連絡・報告事項

【総務部】

- ・平成28年度当初の欠員状況調査について
- ・中学校教育70年記念大会の準備について

【会計部】

- ・会費等納入金の納入について

【教育対策部】

- ・平成28年度教育予算要望について

【研究部】

- ・平成28年度活動の重点について

【生徒指導部】

- ・生徒指導部研修会及び協議会の開催について

【人権教育推進委員会】

- ・平成28年度活動計画について

【進路対策委員会】

- ・都立高等学校入学者選抜における書類提出について

【修学旅行対策委員会】

- ・平成30年度連合体輸送列車の動向調査について
- ・修学旅行調査(10月)の実施について

【選挙管理委員会】

- ・副会長追加選挙の報告について

4 全日中から

- 総務部長世田谷区立芦花中学校 直田益明校長
- 総会(5月26,27日)の実施。
- 熊本地震による被災地義援金を全日中で募ることになり、都校長会でも協力をお願いします。(一人一口1,000円)
- 第67回全日本中学校長会総会宣言・決議について
- 第67回全日中宮城大会連絡票(文部科学省説明の依頼事項)の提出について

5 その他

- ・全国公立小・中学校女性校長会の活動紹介および報告リーフレット「芳春」について
- ・第66回全国公立小・中学校女性校長会全国研究協議大会東京大会の開催について

6 情報交換

- ・平成25年度文部科学省地域指定「インクルーシブ教育システム構築モデル事業」についての報告(国立市)

7 事務局から

- ・諸連絡

平成28年度

第67回 全日本中学校長会 総会

期日 平成28年5月26日(木)・27日(金)
会場 国立オリンピック記念青少年総合センター

《大会概要》

第1日目

□会長あいさつ

全日本中学校長会会長 伊藤 俊典

□祝辞

文部科学大臣 馳 浩 様

全国都道府県教育委員会連合会会長代理
(同事務局長) 黒崎 一郎 様

全日本中学校長会元会長 細谷 美明 様

□議事(抜粋)

- (1) 平成27年度会務報告
- (2) 平成27年度決算の件
- (3) 平成28年度役員の件
新会長 榎本 智司(新宿区立新宿中学校)
- (4) 平成28年度活動方針の件
- (5) 平成28年度予算の件
- (6) 平成29年度第68回全日中研究協議会開催地の件(東京都)
- (7) 平成29年度第68回全日中研究協議会主題・分科会研究題の件
- (8) 宣言・決議

<研究協議会主題>

社会を生き抜く力を身に付け、未来を切り拓く日本人を育てる中学校教育

<分科会研究題と研究の視点>

- 1 「生きる力」を育成する教育課程の編成・実施・評価・改善(東海北陸)
 - (1) 知・徳・体の調和のとれた特色ある教育課程の編成・実施・評価・改善
 - (2) 学校や地域の特色を生かした教育課程の編成・実施・評価・改善
 - (3) 特色ある教育システムを有効活用した教育課程の編成・実施・評価・改善
- 2 生涯にわたり学習する基盤を培う「確かな学力」の定着と向上(東北)
 - (1) 基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得
 - (2) 知識・技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力の育成
 - (3) 主体的・協働的に学習に取り組む態度を養う学習指導と評価の工夫・改善
- 3 心に響き、心を耕す道德教育の充実(関東甲信越)
 - (1) 人間としての在り方や生き方を求める道德科の充実
 - (2) 規範意識や社会性、生命の尊重など豊かな人間性を育み、道德性を高める道德教育の推進

(3) 道德教育推進教師を中心とした指導体制の充実

4 健やかな身体の育成と体力の向上を図る教育の充実(中国)

(1) 体力の向上や健康の保持増進を図る体育・スポーツ活動の充実

(2) 学校保健・食育等、現代的な健康課題への対応

(3) 安全に関する指導の充実

5 未来を切り拓くためのキャリア教育の視点に立った進路指導の充実(北海道)

(1) 教育活動全体を通じた計画的、組織的なキャリア教育の視点に立った進路指導の充実

(2) ガイダンスの機能を生かした進路指導の充実

(3) 社会的・職業的自立のために必要な能力(基礎的・汎用的能力)を育成するキャリア教育の充実

6 自己肯定感や達成感のある豊かな学校生活を築く指導の充実(近畿)

(1) 望ましい人間関係を築き、高め合う集団活動や部活動等の在り方

(2) 不登校やいじめ問題等への対応の在り方

(3) 家庭・地域社会・専門家・関係機関と連携した生徒指導の充実

7 質の高い教育を実現するための人材育成の推進(九州)

(1) 信頼に応えられる教員の育成と研修の在り方

(2) 教科・領域の専門性と指導力を高める人材育成と研修の在り方

(3) 学校経営に携われる教員の育成

8 時代の要請に応える学校経営の充実(四国)

(1) 防災教育の推進

(2) 組織的・継続的な特別支援教育の推進体制の整備と保護者への啓発

(3) 学校評価の充実による学校改善

□拝謁・皇居特別参観

第2日目

□講演

<演題> 当面する初等中等教育上の諸課題

<講師> 文部科学省大臣官房審議官

(高大接続・初等中等教育局担当) 浅田 和伸 様

□文部科学省行政説明

平成28年度 関東甲信越地区中学校長会

第68回研究協議会 長野大会

期日 平成28年6月16日(木)・17日(金)
会場 長野市 ホクト文化ホール・長野市内ホテル、施設

《大会概要》

第1日目

〔開会式〕

□あいさつ

関東甲信越地区中学校長会研究協議会長野大会
会長 柴内 靖
関東甲信越地区中学校長会研究協議会長野大会
実行委員長 武田 育夫

□祝辞

長野県知事 阿部 守一 様
(代理 長野県教育委員会
教育政策課長 佐藤 尚子 様)
長野市長 加藤 久雄 様
(代理 長野市教育委員会
学校教育課長 上石 秀明 様)
全日本中学校長会会長 榎本 智司 様

□全体協議会

＜研究協議題＞

社会を生き抜く力を身に付け、未来を切り拓く人間を育てる中学校教育—地域の学校としての中学校教育の創造—

＜趣旨＞

グローバル化などにより世界全体が急速に変化する中で、産業の空洞化や生産年齢人口の減少、少子高齢社会の到来など深刻な諸課題を抱える我が国は、極めて危機的な状況にある。これらの危機を乗り越え、持続可能な社会を実現するためには、生涯学習に適合した新たな社会モデルを構築していくことが求められている。

(中略) 学校では、生徒の生きる力の育成を目指し、地域に開かれた特色のある学校づくりを進めてきており、これからは社会との関わりを更に重視し、個人の自立と様々な人々との協働に向けた力や、困難に直面しても諦めることなく臨機応変に行動する力、生涯にわたって諸課題を探求し解決していく力など、「社会に生き抜く力」を身に付け、未来を切り拓く人間を育成することが重要となる。

(中略) 校長は、地域の学校としての創意ある教育活動を展開する中で、学校経営の責任者としての使命感と確固たる教育理念とビジョンをもち、課題解決に向けてリーダーシップを強く発揮し、教職員及び地域住民から支持され信頼される学校づくりに邁進したい。

＜基調提案者＞

長野県長野上水内中学校長会

長野市立松代中学校長

中澤 毅一

＜研究の概要＞

I はじめに—長野県教育史と現状—

II (1) 校長会としての研究

(2) 解決すべき社会課題

(3) 地域の学校としての創意ある教育活動の実態

III 教育実践 事例発表

□文部科学省説明

文部科学省大臣官房審議官

(高大接続・初等中等教育局担当) 浅田 和伸 様

□記念講演

＜演題＞「絵のこと、生きること」

＜講師＞信濃デッサン館・無言館

館主 窪島 誠一郎 様

＜概要＞

1941年東京生まれ。印刷工、酒場経営などを経て、64年東京世田谷に小劇場の草分け「キッド・アイラック・アート・ホール」を設立。

79年長野県上田市に夭折画家のデッサンを展示する私設美術館「信濃デッサン館」、97年に戦没画学生慰霊美術館「無言館」を設立。執筆活動では実父水上勉との再会を綴った『父への手紙』ほか『信濃デッサン館日記I～IV』『無言館の青春』絵本『約束』『いのち』等著書多数。2005年、『無言館』の活動で第53回菊池寛賞受賞。

世田谷区の公立中学校在学時に恩師が両親を説得して高校進学を勧めてくれた。若く貧しい時期に夭折の画家、村山槐多の画集から得た感銘から絵の収集に傾倒していった。事業が軌道に乗り、その資本を元手に「信濃デッサン館」を創立した。また、洋画家、野見山暁治氏との出会いを通して、共に戦没画学生(とくに母校・東京美術学校から召集された者達)の遺作の収集・保存に奔走し、「無言館」を設立した。「無言館」は反戦、平和の象徴のように言われるが、戦没画学生たちは反戦のために絵を描いたのではなく、愛する者のため、愛の肖像を残すために描いた。

第2日目

□分科会協議

※ () 内は提案者

第1分科会【教育課程】

＜研究協議題＞

「生きる力」を育む教育課程の編成・実施・評価・改善

＜研究の視点＞

A：新しい教育システムを有効活用した教育課程の編成・実施・評価・改善

(長野県東御市立東部中学校長 菊池 秀樹)

B：学校や地域の特色を生かした教育課程の編成・実施・評価・改善

(東京都江東区立第二砂町中学校長

伊藤 雅夫)

第2分科会【基礎基本】

＜研究協議題＞

確かな学力の定着を図る学習指導

＜研究の視点＞

A：基礎的・基本的な知識・技能の習得とその活用を図る指導

(長野県上田市立丸子中学校長 宮下 昌史)

B：学ぶ意欲を高める学習指導の充実と家庭との連携を図った学習習慣の形成

(千葉県千葉市立犢橋中学校長 佐々 一哉)

第3分科会【健康・体力】

＜研究協議題＞

健やかな心身の育成と体力の向上

＜研究の視点＞

A：体力の向上や健康の保持増進を図る体育・スポーツ活動の充実

(長野県中川村立中川中学校長 唐澤 豊)

B：今日健康課題への対応

(神奈川県相模原市立内出中学校長

中西 文夫)

第4分科会【道徳教育】

＜研究協議題＞

心に響き、心を耕す道徳教育の充実

＜研究の視点＞

A：人間としての在り方や生き方を求める道徳教育の要としての道徳の時間の充実

(長野県木曾郡大桑村立大桑中学校長

武居 竹生)

B：学校教育活動全体を通じた道徳性を高める道徳教育の推進

(栃木県栃木市立皆川中学校長 砂川 博史)

第5分科会【生徒指導】

＜研究協議題＞

自己肯定感や達成感のある豊かな学校生活を築く生徒指導の充実

＜研究の視点＞

A：望ましい人間関係を築いていく、高め合う集団活動の在り方

(長野県塩尻市辰野町中学校組合立両小野

中学校長 高山 雪)

B：不登校やいじめ問題、学校不適應等への対応の在り方

(埼玉県春日部市立飯沼中学校長

野田 隆幸)

第6分科会【進路指導】

＜研究協議題＞

キャリア教育の視点に立った進路指導の充実

＜研究の視点＞

A：自らの将来を切り拓く力を育むキャリア教育

(長野県松本市立鎌田中学校長 久保田文章)

B：「社会を生き抜く力」の育成につながる計画的・組織的な進路指導

(新潟県五泉市立川東中学校長

古田 修)

第7分科会【職員研修】

＜研究協議題＞

質の高い教育を実現するための人材の育成

＜研究の視点＞

A：保護者・地域の信頼に応えられる教員の育成と研修の在り方

(長野県千曲市立更埴中学校長

一志 正人)

B：教科・領域の専門性と指導力を高める人材育成と研修の在り方

(群馬県沼田市立利根中学校長 今井 浩)

第8分科会【経営課題】

＜研究協議題＞

時代の要請に応える学校経営の充実

＜研究の視点＞

A：組織的・継続的な特別支援教育の推進体制の整備と保護者への啓発

(長野県須坂市立墨坂中学校長 宮下 正満)

B：学校の危機管理・安全管理を徹底する学校経営の推進

(山梨県甲府市立北東中学校長 仙洞田茂雄)

第9分科会【条件整備】

＜研究協議題＞

家庭・地域社会との連携を生かした学校経営の活性化

＜研究の視点＞

A：学校評価を生かし家庭や地域との連携を深める学校経営

(長野県野沢温泉村立野沢温泉中学校長

芳原 毅彦)

B：保護者や地域住民のニーズを学校経営に生かすための手立て

(茨城県守谷市立けやき台中学校長

石井 良秋)

〔閉会式〕

□開催県代表あいさつ

□次期開催県代表あいさつ (千葉県千葉市)

『私の学校経営』

文京区立音羽中学校長 愛川 睦

1 本校の概要

本校は、平成21年度に、旧文京区立第五中学校と旧文京区立第七中学校が統合し開校した。現在、区内で最も新しい学校で、今年度、開校8年目を迎えている。

周囲の環境は、国公立の保幼小中の各校園とともに、高等学校、大学のひしめく文教地区である。

文京区立の中学校は、学校選択制度をとっているが、ここ数年本校に入学する生徒は、通学区域内の生徒が多勢を占め、本来の地域の生徒で学校が構成されている。このことを、「地域に愛されている学校」と受け止め、地域に根ざす学校として大変ありがたいことであると考えている。

生徒は、例年およそ100名が入学し、全校生徒の在籍が300名強の学校であり、10校ある区立中学校の中では規模の大きい学校の一つである。

また、文京区全体として、区立小学校児童のおよそ半数は、国立・都立・私立中学校へ進学する地域であることも付け加えておく。

2 学校経営の基本理念

本校の教育目標が、「豊かな学びを社会にかす生徒」、「互いに共感し思いやる生徒」、「身体をきたえ健康に生きる生徒」であることから、目指す学校像として、「地域とともに豊かな学び・豊かな心・健康な身体を育む学校」としている。

今年度、私の学校経営の土台となる考え方として、目指す学校像の文章の頭部分に、「生徒の心を耕し、」という言葉を加えて説明し、学校づくりの基本理念とした。

「生徒の心を耕す」とは、わたしたち教職員が、生徒に対するすべての機会に、「生徒の感情を揺り動かし、自ら進んで取り組もうという気持ちが湧いて出てくるよう、厳しく、そして温かい対応と丁寧な指導を心掛けよう。」という、日々子どもへの指導に対する基本的な思いである。言い方を変えれば、決して、無条件にそして反射的に動くような生徒を育ててほしくはない、という思いである。

生徒の心を耕すことで、生徒自身の心が豊かになっていく。学ぼうとする意欲も、方法も豊かになっていく。そういった心の豊かさが、主体的で、想像する力を身に付けた生徒に育っていくという考えを、保護者や地域の方々にも伝えている。特に保護者には、生徒の成長を、学校と家庭が力を合わせて支援する大切さを伝え続けることが、私の仕事であると思っている。

真面目はカッコいい

武蔵野市立第三中学校長 河合 雅彦

教員になり30数年が経った。初任の頃から、部活動に明け暮れたことが思い出される。生徒にはスポーツの楽しみを少しは伝えることができたと思っているが、改めて誇れるような実績もない。そして、いつか校長になったら、「生徒の夢を達成させてあげよう。部活動で、生徒と一緒に汗を流そう」などと考えていた。

部活動に夢中の頃、よく思ったのが「運動能力がありながらなかなか伸びていかない生徒がいる」ことだった。指導面での問題もあったかと思うが、素晴らしい素質があり、将来が楽しみだと思える生徒が真剣に練習に打ち込めず、本来もっていた力が発揮されないままその伸びが停滞したりした。また、周りの仲間の雰囲気、その場での頑張りをやめてしまったり、挑戦するのを諦めてしまったりした生徒もいた。

一方、多くの汗を流し練習に取り組んでいた生徒達の多くから、卒業後の様々な活躍を聞くことができた。教員としてとても嬉しい知らせもある。

校長となり、生徒には自分の思いを伝えていこうと考えていた。そして全校での朝会（集会）が近づく度に、今度は生徒に何を伝えていこうかと考える。いつしか生徒には、一生懸命や努力、真面目な姿勢の必要性などをよく話した。

中学校では、学習に運動に、学校行事等に羨ましいばかりの素晴らしい生徒の力を見ることができる。

中学校は僅か三年間である。この短い期間に生徒達には、沢山の充実感や達成感を味わわせたい。そのためにも、真面目さを茶化すような雰囲気を一新し、真剣に取り組むことの意義や

その素晴らしさを伝えたい。何より努力をし続けることは厳しく、悪ぶることや仲間の笑いを優先することより価値があることを理解させたい。当然、仲間との調和も大切で周りの状況も見えず、自分勝手な思いをひたすら貫くことを求めているわけではない。

今となって、なぜ、生徒に対して「真面目はカッコいい」という言葉を言い始めたかは定かではないが、真面目な姿勢は私自身も常に意識することである。

しばらく年を経て、現在の学校に着任した。本校には「責任ある自由」という言葉があった。この言葉は、生徒の「自主・自律」を促すもので本校の伝統となっている言葉である。

いつしかこの言葉をもとに「努力」とか「一生懸命」とかに触れながら「真面目はカッコいい」と生徒に伝え始めていたところ、市内のある中学校に訪問した際、生徒昇降口に「真面目はカッコいい ○○中学校生徒会」との何本もの登旗が立っているのが目に入った。

私と同じことを考えていた人がある。私と同じ価値観をもった人がいると、何とも言えぬ気持ちになった。

生徒には、今の時間を大切にしたい。当然、中学生だからいつでも完璧に取り組んだり、機械のように同じことを繰り返したりすることは難しい。それでも、真剣に取り組まなければならない場面では真面目に努力を続ける姿勢を育てたい。

本校にある「責任ある自由」を生徒に訴えつつ、「真面目はカッコいい」とこれからも話し続けていきたい。

【大田区の成り立ち】

大田区は、江戸から明治の初期、44の村に分かれていましたが、その後、明治22年（1889）年に再編され、9つの村、後に町へと移行して行きました。

その後、昭和7年に、5つの町が合併して大森区、4つの町が合併して蒲田区が誕生しました。

さらに、昭和22年に大森区と蒲田区が合併し、「大田区」が誕生したのです。

そういう経緯がありますので、旧大森区に開校した中学校の多くは、「大森」という名称をつけたナンバースクールとして存在しています。

大田区は、多くの歴史的資源を受け継ぐとともに、下町ボブスレーのように、世界有数の技術をもつものづくりの街として有名です。このような地域のもつ力を活かしつつ、羽田空港をもつ、東京の玄関、国際都市として大田区は大きく発展をしています。

【おおた教育振興プラン2014】

平成26年度策定された「おおた教育振興プラン2014」では、大田区教育目標を実現するための4つの視点に基づく6つのアクションプランが体系化されています。

以下、アクションプランの概要を述べます。

①学力向上アクションプラン

大田区学習効果測定の実施、学習カルテの実施、数学ステップ学習、学習指導講師による数学、英語の補習、英語カフェ等で、基礎学力の向上、思考力・判断力・表現力の育成や個性を發揮し、未来を切り拓く教育の充実を図っています。

②豊かな心を育むアクションプラン

子どもの心サポート月間、学校生活調査や

適応指導教室、相談学級等の充実、生活指導支援員の配置、教育相談員の学校訪問、道徳校内伝達研修の実施等で規範意識、自己肯定感の向上、豊かな心の育成等を図っています。

③体力向上アクションプラン

小中一貫体力向上全体計画作成や食育推進、スポーツ一校一取組、体力向上モデル校・オリ・パラ教育研究推進校の拡充、部活動の外部指導員の活用等で体力向上を図っています。

④教育環境向上アクションプラン

授業改善セミナーの開催、教科等専門性向上ウィークの実施、理科授業力向上研修等で、OJTの充実や授業力の向上を図っています。

⑤家庭・地域の教育力向上アクションプラン

各校、HP上で、教育目標、学校経営方針、学校経営計画や、その成果と自己評価を公開。また、地域教育連絡協議会や学校支援地域本部、青少年対策委員会等との密接な連携を図ること等で、地域に関かれ、地域力を活用した教育活動を推進しています。

⑥地域力育成アクションプラン

区民大学の実施、大田総合体育館の活用、文化財「鳳凰閣」の修復及び勝海舟記念施設への活用等の事業を通して、生涯学習の環境整備、歴史・文化の継承、スポーツ・健康作りに取り組む環境の整備を行っています。

以上、区の教育施策の一部を紹介しました。

大田区は平成29年3月に区制70周年を迎えます。これからも世界へ羽ばたく大田っ子を育成するよう大田区立中学校28校が力を合わせて努力して行きたいと考えています。